

三井住友DS・海外株式 ETFファンド

追加型投信／海外／株式

日経新聞掲載名：海外株ETF

2022年4月6日から2023年4月5日まで

第20期 決算日：2023年4月5日



受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは外国投資信託証券を中心に投資を行い、グローバルな株式市場(除く、日本)の動きをとらえることを目標に運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

当期の状況

基準価額(期末)	35,061円
純資産総額(期末)	32,431百万円
騰落率(当期)	-0.4%
分配金合計(当期)	250円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2022年4月6日から2023年4月5日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期 首	35,444円
期 末	35,061円 (既払分配金250円(税引前))
騰 落 率	-0.4% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2022年4月6日から2023年4月5日まで)

当ファンドは、主として、バンガードが設定・運用するインデックス型の4つの米ドル建て米国籍外国投資信託証券を通じて日本を除く世界主要国の株式に実質的に投資し、グローバルな株式市場(日本を除く)の動きをとらえることを目標に運用を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

上昇要因

- 米ドルが円に対して上昇したこと

下落要因

- 米国株式市場、新興国株式市場が下落したこと

1万口当たりの費用明細(2022年4月6日から2023年4月5日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	378円	1.100%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は34,393円です。
(投 信 会 社)	(131)	(0.379)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
(販 売 会 社)	(233)	(0.676)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(15)	(0.044)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.005	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
(株 式)	(-)	(-)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(2)	(0.005)	
(c) 有価証券取引税	0	0.000	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
(株 式)	(-)	(-)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(公 社 債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	5	0.014	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(3)	(0.008)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送回金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(2)	(0.005)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	385	1.119	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

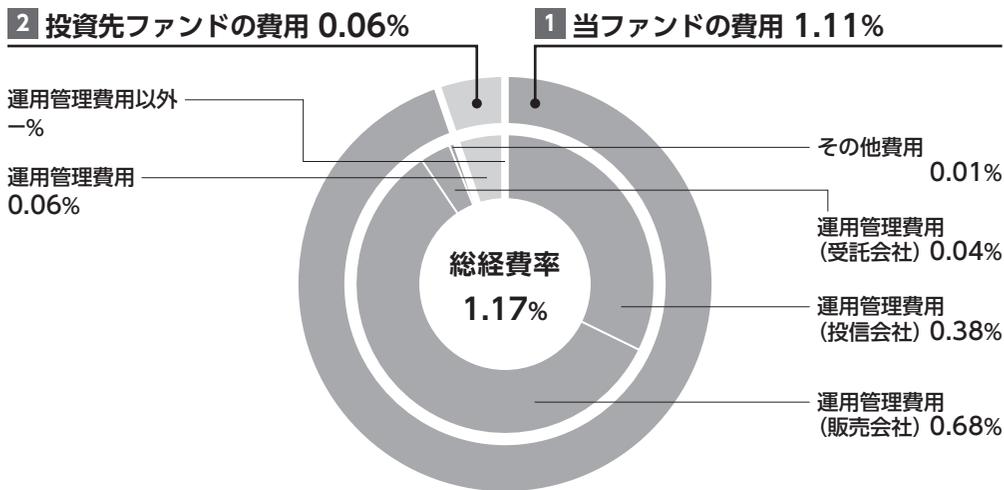
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1 + 2)	1.17%
1 当ファンドの費用の比率	1.11%
2 投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.06%
投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	ー%

※ **1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※ **2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、経費率または信託報酬率で、全額を運用管理費用としています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

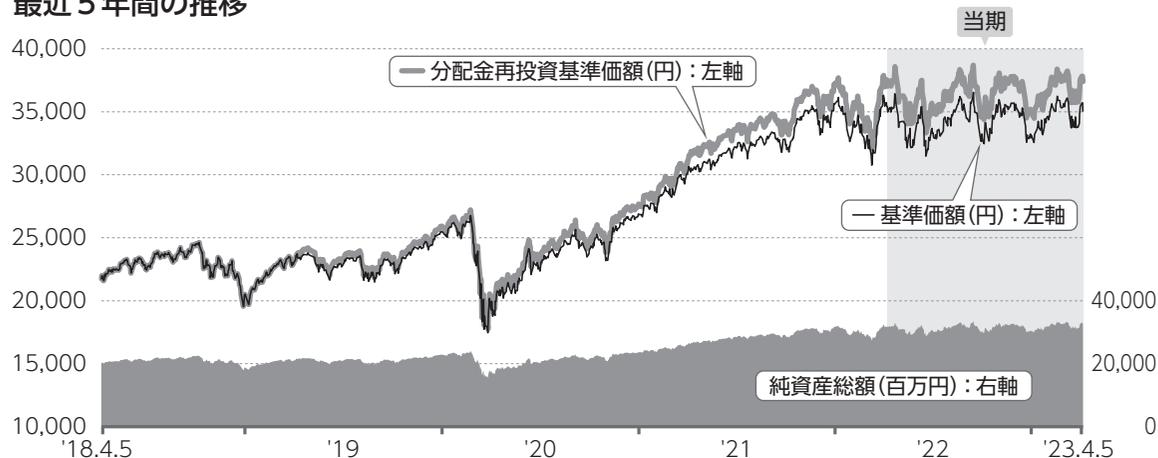
※ **1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※ 上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.17%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年4月5日から2023年4月5日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年4月5日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018.4.5 決算日	2019.4.5 決算日	2020.4.6 決算日	2021.4.5 決算日	2022.4.5 決算日	2023.4.5 決算日
基準価額 (円)	21,739	23,394	18,837	30,230	35,444	35,061
期間分配金合計(税引前)(円)	—	400	220	420	540	250
分配金再投資基準価額騰落率(%)	—	9.5	-18.5	62.7	19.0	-0.4
純資産総額 (百万円)	19,892	21,383	16,708	26,222	31,594	32,431

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について(2022年4月6日から2023年4月5日まで)

外国株式市場は、欧州株式は上昇した一方で、米国株式や新興国株式は下落しました。また為替市場では、米ドルは円に対して上昇しました。

米国株式市場

米国株式市場は、下落しました。

期初から6月中旬にかけては、インフレ懸念の高まりからF R B(米連邦準備制度理事会)による金融政策が積極的な利上げ姿勢へ転じたことから金利が上昇し、バリュエーション(投資価値評価)調整から成長株主導で下落しました。その後、F R Bによる利上げペースの緩和期待や堅調な企業の決算発表に伴い反発する局面もみられ、一進一退の展開となりましたが、期を通じてみると、米国株式市場は下落しました。

欧州株式市場

欧州株式市場は、上昇しました。

期初から10月中旬にかけては、世界各国の中央銀行の金融政策が積極的な利上げ姿勢へと転じたことから、米国株に連れる形となり、下落基調で推移しました。しかし、その後は中国の経済再開、欧州のソフトランディング(軟着陸)期待などの高まりにより株式市場は大きく上昇しました。期末には米国での銀行破綻に欧州での大手金融機関の経営不安の報道が重なったことで、リスク回避の動き

が強まり下落する局面もありましたが、期を通じてみると、欧州株式市場は上昇しました。

新興国株式市場

新興国株式市場は、下落しました。

世界各国の中央銀行による利上げなどに伴い、期初から10月下旬までは下落基調で推移しました。その後は、中国の景気回復期待などから、上昇基調で推移しました。期末には、欧米の金融不安の高まりから、欧米株式市場につられて下落し、期を通じてみると、新興国株式市場は下落しました。

為替市場

米ドル・円は、米ドル高・円安となりました。

期初から10月上旬にかけては、F R Bが金融引き締めを積極化した一方で、日銀が緩和姿勢を継続したことによる日米金利差拡大などを背景に米ドル高・円安基調となりました。その後、日銀が予想外に長期金利の許容変動幅を広げたことや、リスク回避姿勢の高まりを受けて、米ドル安・円高方向に推移する局面もありましたが、期を通じてみると、米ドル高・円安となりました。

ポートフォリオについて (2022年4月6日から2023年4月5日まで)

当ファンド

運用の基本方針に基づきグローバルな株式市場(除く日本)の時価総額を勘案して設定した基本配分比率に沿って下記の4つの投資信託に資産配分を行いました。追加設定や一部解約に伴う入出金がある場合は、保有現金残高などを考慮した上で売買を行い、組入比率の調整を行いました。

バンガード・グロース・インデックス・ファンド (E T F ・ シェアクラス)

米国成長株のインデックスであるC R S P U S ラージ・キャップ・グロース・インデックスをベンチマークとし、ベンチマークのパフォーマンスへの連動を目指して運用を行いました。

バンガード・バリュー・インデックス・ファンド (E T F ・ シェアクラス)

米国割安株のインデックスであるC R S P U S ラージ・キャップ・バリュー・インデックスをベンチマークとし、ベンチマークのパフォーマンスへの連動を目指して運用を行いました。

バンガード・ヨーロッパン・ストック・インデックス・ファンド (E T F ・ シェアクラス)

F T S E 欧州先進国オールキャップ・インデックスをベンチマークとし、ベンチマークのパフォーマンスへの連動を目指して運用を行いました。

バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド (E T F ・ シェアクラス)

F T S E エマージング・マーケット・オールキャップ(含む中国A株)インデックスをベンチマークとし、ベンチマークのパフォーマンスへの連動を目指して運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2022年4月6日から2023年4月5日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2022年4月6日から2023年4月5日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第20期
当期分配金	250
(対基準価額比率)	(0.71%)
当期の収益	250
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	27,176

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りいたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

運用の基本方針に基づき、グローバルな株式市場(除く日本)の時価総額を勘案して設定した基本配分比率に沿って4つの投資信託に資産配分を行います。

バンガード・グロース・インデックス・ファンド
バンガード・バリュー・インデックス・ファンド
バンガード・ヨーロッパン・ストック・インデックス・ファンド
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド
(ETF・シェアクラス)

各ファンドとも、ベンチマークとするインデックスのパフォーマンスへの連動を目指して運用を行います。

3 お知らせ

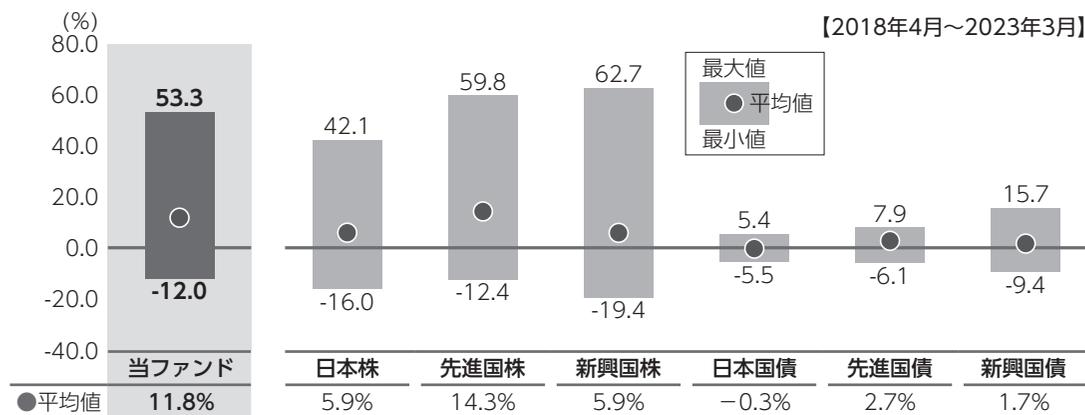
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	無期限(設定日：2003年6月27日)	
運用方針	外国投資信託証券を中心に投資を行い、グローバルな株式市場(除く、日本)の動きをとらえることを目標に運用を行います。	
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。	
	バンガード・グロース・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス) 米国株式	バンガード・バリュース・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス) 米国株式
	バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス) 欧州株式	バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス) 新興国株式
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ■日本を除く世界主要国の株式に実質的に投資し、グローバルな株式市場(日本を除く)の動きをとらえることを目標に運用を行います。 ■ファンド・オブ・ファンズの仕組みを採用し、既に実績のあるファンドを活用することで、効率的な分散投資を行います。 ■主として、バンガードが設定・運用するインデックス型の4つの米ドル建て米国籍外国投資信託に投資します。 ■バンガードの4つのインデックス・ファンドの基本配分比率は、日本を除くグローバルな株式市場の時価総額等を勘案して、概ね以下の比率で投資を行います。 バンガード・グロース・インデックス・ファンド……………約32.5% バンガード・バリュース・インデックス・ファンド……………約32.5% バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド……………約30.0% バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド…約5.0% ※時価総額等を勘案して基本配分比率は将来的に見直しを行うことがあります。 	
組入制限	<ul style="list-style-type: none"> ■株式への直接投資は行いません。 ■外貨建資産への投資には、制限を設けません。 	
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> ■年1回(原則として毎年4月5日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。	

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

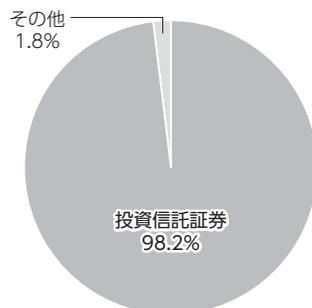
当ファンドの組入資産の内容 (2023年4月5日)

組入れファンド等

銘柄名	組入比率
バンガード・グロース・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス)	32.8%
バンガード・バリュー・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス)	31.2%
バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス)	30.4%
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス)	3.9%
コールローン等、その他	1.8%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

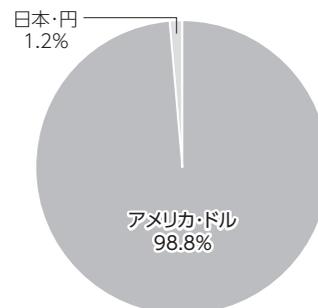
資産別配分 (純資産総額比)



国別配分 (ポートフォリオ比)



通貨別配分 (純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第20期末 2023年4月5日
純資産総額	(円) 32,431,830,564
受益権総口数	(口) 9,249,984,918
1万口当たり基準価額	(円) 35,061

※当期における、追加設定元本額は1,011,430,252円、解約元本額は675,561,406円です。

組入上位ファンドの概要

バンガード・グロース・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス)(2022年1月1日~2022年12月31日)

基準価額(米ドル建て)の推移



基準価額(円換算)の推移



組入上位銘柄

(基準日: 2022年12月31日)

銘柄名	組入比率
1 Apple Inc.	12.5%
2 Microsoft Corp.	11.4%
3 Alphabet Inc.	6.3%
4 Amazon.com Inc.	4.6%
5 NVIDIA Corp.	2.2%
6 Tesla Inc.	2.1%
7 Visa Inc.	2.1%
8 Home Depot Inc.	2.1%
9 Mastercard Inc.	1.9%
10 Thermo Fisher Scientific Inc.	1.4%
全銘柄数	253銘柄

※比率は、純資産総額に対する割合

1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。

(ご参考)

項目	比率
エクスペンス・レシオ	0.04%

※エクスペンス・レシオとはファンドの運用管理費用およびその他費用をファンドの平均純資産総額で割ったものです。

※上記費用はファンドの純資産から差し引かれています。

資産別配分・国別配分・通貨別配分

入手できるデータがないため記載していません。

バンガード・バリュー・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス)(2022年1月1日~2022年12月31日)

基準価額(米ドル建て)の推移



基準価額(円換算)の推移



組入上位銘柄

(基準日：2022年12月31日)

	銘柄名	組入比率
1	Berkshire Hathaway Inc.	3.1%
2	UnitedHealth Group Inc.	2.9%
3	Johnson & Johnson	2.7%
4	Exxon Mobil Corp.	2.7%
5	JPMorgan Chase & Co.	2.3%
6	Procter & Gamble Co.	2.1%
7	Chevron Corp.	1.8%
8	Pfizer Inc.	1.7%
9	AbbVie Inc.	1.7%
10	Merck & Co. Inc.	1.6%
	全銘柄数	342銘柄

※比率は、純資産総額に対する割合

1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。

(ご参考)

項目	比率
エクスペンス・レシオ	0.04%

※エクスペンス・レシオとはファンドの運用管理費用およびその他費用をファンドの平均純資産総額で割ったものです。

※上記費用はファンドの純資産から差し引かれています。

資産別配分・国別配分・通貨別配分

入手できるデータがないため記載していません。

バンガード・ヨーロッパン・ストック・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス)(2021年11月1日~2022年10月31日)

基準価額(米ドル建て)の推移



基準価額(円換算)の推移



組入上位銘柄

(基準日：2022年9月30日)

銘柄名	組入比率
1 Nestle SA	3.4%
2 Roche Holding AG	2.7%
3 Shell plc	2.1%
4 ASML Holding NV	1.9%
5 AstraZeneca plc	1.9%
6 Novartis AG	1.8%
7 Novo Nordisk A/S	1.8%
8 LVMH Moet Hennessy Louis Vuitton SE	1.7%
9 TotalEnergies SE	1.3%
10 HSBC Holdings plc	1.2%
全銘柄数	1,368銘柄

※比率は、純資産総額に対する割合

1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。

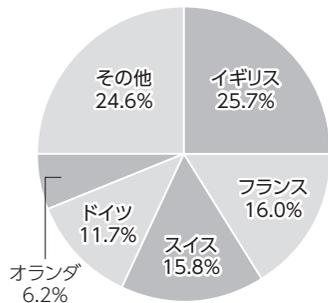
(ご参考)

項目	比率
エクスペンス・レシオ	0.11%

※エクスペンス・レシオとはファンドの運用管理費用およびその他費用をファンドの平均純資産総額で割ったものです。

※上記費用はファンドの純資産から差し引かれています。

国別配分(ポートフォリオ比)



※資産別配分、通貨別配分については、入手できるデータがないため記載していません。

※基準日は2022年9月30日です。

バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド(ETF・シェアクラス)(2021年11月1日~2022年10月31日)

基準価額(米ドル建て)の推移



基準価額(円換算)の推移



組入上位銘柄

(基準日：2022年9月30日)

銘柄名	組入比率
1 Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	5.1%
2 Tencent Holdings Ltd.	3.3%
3 Alibaba Group Holding Ltd.	2.4%
4 Reliance Industries Ltd.	1.6%
5 Meituan	1.4%
6 Infosys Ltd.	1.0%
7 JD.com Inc.	1.0%
8 China Construction Bank Corp.	0.9%
9 Petroleo Brasileiro SA	0.9%
10 Vale SA	0.8%
全銘柄数	5,574銘柄

※比率は、純資産総額に対する割合

1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。

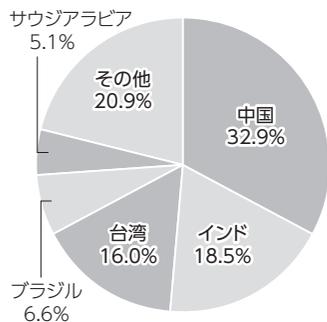
(ご参考)

項目	比率
エクスペンス・レシオ	0.08%

※エクスペンス・レシオとはファンドの運用管理費用およびその他費用をファンドの平均純資産総額で割ったものです。

※上記費用はファンドの純資産から差し引かれています。

国別配分(ポートフォリオ比)



※資産別配分、通貨別配分については、入手できるデータがないため記載していません。

※基準日は2022年9月30日です。